

## 日本産アリ類都道府県別分布表

「日本産アリ類都道府県別分布表(寺山・緒方・崔, 1994. 蟻, 18: 5-17.)」が 1994 年に発表され, それに基づいた「日本産アリ類県別分布図(寺山・木原, 1994. 日本蟻類研究会, 63 pp.)」も同年に出版された. その後 20 年以上が経過した現在, 分布の知見が多く加えられている. また, 新たに追加された種や学名が変更された種も少なくない. 1994 年段階では 8 亜科 63 属 258 種のアリが記録されていたものが, 2018 年段階で, 9 亜科 67 属 300 種が報告されている. 今回, 1994 年版の資料を土台に, その後の知見を加え, 分類学的な変更を反映させた改定版を作成した. 本都道府県別分布表は, エクセルファイルにより作成しており(日本産アリ類生態情報 27a), 今後は脱落や初記録の追加, 誤りの修正等を施しつつ適時更新して提示し, 最新の状態が維持出来るよう努めたい.

### 記載要領

本分布表は以下の要領で作成した.

- 1) 各都道府県の種の分布は本土での分布記録で, 島嶼からの記録は除いてある. 一方, 鹿児島県の記録は, 本土のものと参照用の薩南諸島(種子島・屋久島以南から奄美群島まで)からの分布記録を載せた. 沖縄県からの記録には沖縄島のみならず尖閣諸島, 大東諸島を含み, 八重山諸島までの全島嶼を含む記録を示した.
- 2) 分布表における○印は生息あるいは分布記録を示し, ◎印は比較的近年(およそ 30 年以内)に人為的に侵入し, 野外に定着した種を示す. ●印は人為的移入種の内, 野外で発見されたが, 定着に疑問を持つ記録を示し, ▲印は植物温室等で発見された記録, あるいは港湾部で発見された記録(コンテナ貨物内で発見された記録を除く)を示す. ? 印は分布に疑問がある, あるいは分布に確認を要する種である.
- 3) 「県別分布表」による 1994 年以降の追加記録で, コメントや出典を要するものには, 分布印の右側に文献・資料に対応する数字を示した. また, 寺山の個人資料による記録には\*印を付けた.
- 4) 近年, 隠蔽種を複数含むと判断されたクロヤマアリ隠蔽種群(旧クロヤマアリ)の各種は, Akino et al., 2002 (Zool. Sci., 19: 1155-1165.)の分布図により分布を示した. 旧ハダカアリ (*C. kagutsuchi* 種群; 現在 3 種に分割) は, 沖田, 2017 (岐阜大学大学院

連合農学研究科博士学位論文)中の分布図を用いて示した。一方、ハラクシケアリ隠蔽種群 (*Myrmica rubra* 種群; 旧シワクシケアリ) とクロクサアリ隠蔽種群 (*Lasius fuji* 種群; 旧クロクサアリ) は、種群を認識した上での同定による分布記録のみを分布表に示した。そのため、現段階では多くの都府県で分布状況の把握が甚だ不完全な状態となっている。アメイロアリ *Nylanderia flavipes*, トビイロケアリ *Lasius japonicus*, トビイロシワアリ *Tetramorium tsushimae*, ナワヨツボシオオアリ *Camponotus nawai* も実体は複数種を含む隠蔽種群と考えられるが、現在研究途上にあり、今回はそれぞれを1種として分布記録を示した。

5) 人為的移入種の記録は、コンテナ貨物内で発見されたもの並びに動植物検疫で発見された記録を除く(これらを含めると、2017年以降に得られた外来種は5亜科20属43種に達し、2023年段階で22属49種に達する)。ただし、アカヒアリについてはコンテナ貨物内で発見された記録も含めた。

**都道府県別の種数** 種数には、比較的近年（およそ 30 年以内）に人為的に侵入し、野外に定着した種を含めている。旧シワクシケアリ、旧クロクサアリ、旧ハダカアリの記録は除外してある。

都道府県名	属数	種数	都道府県名	属数	種数
北海道	24	66	京都府	38	86
東北地方			大阪府	40	92
青森県	20	50	兵庫県	36	80
岩手県	24	57	三重県	37	87
秋田県	26	54	奈良県	30	56
山形県	22	41	和歌山県	36	67
宮城県	31	69	中国地方		
福島県	26	59	鳥取県	33	72
関東地方			岡山県	34	64
茨城県	33	86	島根県	28	53
栃木県	36	93	広島県	41	101
群馬県	32	69	山口県	39	86
埼玉県	35	95	四国地方		
東京都	43	111	香川県	37	102
神奈川県	41	105	徳島県	33	70
千葉県	38	85	愛媛県	45	94
中部地方			高知県	41	102
新潟県	28	60	九州地方		
長野県	33	78	長崎県	36	82
山梨県	31	65	佐賀県	30	57
富山県	32	67	福岡県	38	95
石川県	32	71	大分県	32	65
福井県	33	75	熊本県	36	62
静岡県	40	95	宮崎県	35	95
岐阜県	41	117	鹿児島県	42	112
愛知県	40	100	薩南諸島	51	141
近畿地方			沖縄県	53	150
滋賀県	27	54			

## 文献・資料

寺山他(1994)以降に出版され、重要な分布を示す文献や資料を都道府県ごとに提示する。

## 北海道

1. 丸山宗利・喜田和孝・伊藤文紀, 2005. モリシタケアリを北海道から記録. 蟻, 27: 8.
  2. 木野田君公・渡辺康之, 2012. 大雪山で北海道初記録のタカネクロヤマアリを確認. つねきばち, 22: 52-52.
  3. 長万部町からの報告（北海道新幹線調査報告書）があるが、確認を要する.
  4. 坂本洋典・寺山 守・東 正剛, 2011. 上野動物園温室内の国内移入アリ. 蟻, 33: 43-47.
  5. 寺山 守・久保田敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 朝倉書店, 278 pp.
  6. 日本自然保護協会, 2019. 自然しらべ 2018 身近なアリ調べ! 結果レポート. 日本自然保護協会. [https://www.nacsj.or.jp/fficial/up-content/uploads/2018/ss2018\\_report.pdf](https://www.nacsj.or.jp/fficial/up-content/uploads/2018/ss2018_report.pdf)
  7. 喜田和孝, 2003. アリについての若干の知見. 昆虫園研究, 4: 42-43.
  8. 寺山 守・富岡康浩, 2022. 侵略的外来生物アルゼンチンアリ北海道で発見される. 月刊むし, 616: 59-61.
  9. 寺山 守・富岡康浩・神戸嘉市・木村悟朗・谷川 力, 2020. 本土各地で確認された家屋害虫フシナガニセハリアリ. *Medical Entomology & Zoology*, 71: 1-4.
- \*1 芦別市（滝里ダム）

## 青森県

1. 工藤 正, 2011. 青森県から確認されたカラフトクロオアリ. *Cerastrina*, 46: 33-35.
  2. 寺山 守・久保田敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 朝倉書店, 278 pp.
- \*1 岩木山 ; \*2 弘前市 ; \*3 十和田湖町奥入瀬

## 岩手県

1. 萩原康夫・田村浩志, 2002. 焼石連峰駒ヶ岳のアリ類. 昭和大学教養部紀要, 33: 33-36.
2. 佐藤愛子・青井俊樹・安江悠真, 2014. 岩手県遠野市におけるアリ類の生息状況-夏期のツキノワグマの餌資源としての視点から-. 岩手大学演習林報告, 45: 81-97.
3. アリ類データベース作成グループ(編), 1995. 日本産アリ類カラー画像データベース

1995. 日本蟻類研究会. [近藤正樹, 1995. 日本産アリ類の生物地理の研究. 藤原ナチュラルヒストリー振興財団第1回学術研究助成最終報告, 1-3.]

\*1 下閉伊郡山田町; \*2 宮古市八木沢

## 秋田県

1. 萩原康夫・久松真紀子, 1998. 白神山地および周辺地域のアリ類. 昭和大学教養部紀要, 29: 63-68.
2. 佐藤俊幸・橋間清香, 2018. 秋田県大潟村で採集されたアリ. 蟻, 39: 87.
3. 藤中由美, 2021. 秋田県立小泉潟公園のアリ相. 秋田県立博物館研究報告, 46: 3-7.

\*1 大館市池内

## 山形県

\*1 酒田市

## 宮城県

\*1 仙台市

## 福島県

1. 井上尚武, 2004. 阿武隈山地のアリ-1992年までの調査結果より-. オケラ, 62: 1-14.
- 1 会津若松市; \*2 耶麻郡猪苗代町(磐梯山); \*3 郡山市

## 茨城県

1. 萩原康夫, 2001. アリ類. 茨城県自然博物館第2次総合調査報告書, 『鶏足山塊・涸沼・県央海岸を中心とする圏央地域の自然-(1997-99)』, 茨城県自然博物館, 385-389. [訂正: 茨城県自然博物館第2次総合調査報告書, 茨城県自然博物館, 419. (2004); 茨城県北東部地域における土壌動物. 茨城の土壌動物調査会, 416-420. (2004)]
2. 濱口京子, 2005. キバジュズフシアリ *Anomalomyrma* sp. を茨城県から記録. 蟻, 27: 7.
3. 萩原康夫, 2007. アリ類. 茨城県北西地域における土壌動物. 茨城県自然博物館第4次総合調査報告書, 茨城県自然博物館, 395-400. [83種]
4. 井上尚武, 2012. 茨城県鹿嶋市でルリアリを採集. るりぼし, 41: 125.
5. 篠原颯杜・小比賀光紘・蒔田将吾・細川涼太・水野理央・寺山守・伊藤文紀, 2023. 四国から記録がなかった稀有なアリ4種を香川県で採集. 蟻, 44: 53-55.

## 栃木県

1. 寺山 守・園部力雄, 2002. 那須御用邸のアリ類. 栃木県立博物館研究報告書, 那須御用邸の動植物相, 栃木県立博物館, 1561-161. [88 種]
2. 萩原康夫, 2002. アリ類. 栃木県自然環境基礎調査「とちぎの土壤動物」, 栃木県林務部自然環境課, 309-327. [93 種]
3. 園部力雄, 2019. 栃木県からのアギトアリの記録. インセクト, 70: 53.

## 群馬県

- \*1 渋川市

## 埼玉県

1. 南部敏明, 1998. 埼玉県の膜翅目(ハチ・アリ類). 埼玉県昆虫誌 III, 埼玉昆虫談話会, 9-92. [86 種]
  2. 南部敏明, 1999. 埼玉県から新たに記録されたハチ目 (2). 埼玉動物研通信, 32: 11-14.
  3. 寺山 守, 2019. 埼玉県のアリ: 付 隠蔽種問題と今後の種分類. 埼玉動物研通信, 90: 47-68. [96 種]
  4. 寺山 守, 2023. 侵略的外来アリ 4 種の国内分布記録. 蟻, 44: 78-89.
- \*1 宝登山, 熊倉山; \*2 武甲山, 秩父市三峰; \*3 熊倉山, 白岩山, 雲取山, 秩父市荒川日野, 秩父市大滝; \*4 武甲山, 白石峠; \*5 堂平山, 伊豆ヶ岳, 東松山市, 浦和市; \*6 さいたま市, 坂戸市

## 東京都

1. 吉田 進, 1999. 町田市で採集された珍しいアリ類. 神奈川虫報, 128: 37-39.
2. 寺山 守・久保田敏, 2002. 東京都のアリ. 蟻, 26: 1-32.
3. 田悟敏弘, 2009. 東京都におけるケブカアメイロアリの記録. 寄せ蛾記, 134: 32-33.
4. 坂本洋典・寺山 守・東 正剛, 2011. 上野動物園温室内の国内移入アリ. 蟻, 33: 43-47.
5. 先崎 優・寺山 守・砂村栄力・久保田敏・高桑正敏, 2012. アギトアリ関東地方で生息を確認. 月刊むし, 501: 13-14. [伊東, 2013. 月刊むし, 506: 35-36. も参照]
6. 寺山 守, 2014. 八王子のアリ類. 新八王子市史自然編, 471-475. [84 種]
7. 寺山 守・岸本年郎・酒井 香・高桑正敏, 2015. 東京都野鳥公園のハチ目. 神奈川虫報, 185: 1-6.

8. 寺山 守・江口克之, 2016. ハチ目 HYMENOPTERA アリ科 Formicidae. 八王子市動植物目録. 新八王子市史自然調査報告書, 八王子市, 524-528.
9. Sakamoto, Y., H. Mori, H. Imai, T. Kishimoto, M. Toda, S. Kishi & K. Goka, 2016. Survey of the ant fauna at ports of Tokyo Bay and the Ogasawara Islands. App. Ent. Zool., DOI10.1007/s13355-016-0444-1. [ Table 1 訂正有り ]
10. 寺山 守, 2014. 皇居のアリ. 国立科博専報, 50: 527-535.
11. 原田 豊・浅井嘉乃・荒場麻瑚・藤山佳保里, 2018. 東名阪地域の港のアリ相—外来アリのモニタリング—. 日本生物地理学会会報, 73: 109-116.
12. 寺山 守・富岡康浩・小松謙之, 2023. マルフシニセハリアリ *Hypoponera zwaluwenburgi* の本州本土での記録. 蟻, 44: 65-67.
13. 寺山 守・富岡康浩, 2023. トビニセハリアリ *Hypoponera ergatandria* の本州本土での記録. 蟻, 44: 61-64.
14. 寺山 守・富岡康浩・木村悟朗・谷川 力, 2021. 本州港湾部で発見された外来アリの一種ナンヨウテンコクオオズアリ. 都市有害生物管理, 11: 75-79.
15. 井上哉太・寺山 守・佐藤俊幸, 2023. 東京都初記録となるウメマツアリ属のアリ 2 種及びヤドリウメマツアリのギナンドロモルフの記録. 蟻, 44: 8-16. [113 種]

#### 神奈川県

1. 久保田政雄・酒井春彦, 2004. ハチ目 (アリ科) Hymenoptera (Formicidae). 神奈川県昆虫誌, 神奈川県昆虫談話会, 1327-1336. [96 種]
2. 宮谷秀明, 2014. ニシカワクサアリアリズカムシとテラニシクサアリの横浜市内の記録. 神奈川県虫報, 184: 50-51.
3. 先崎 優・寺山 守・砂村栄力・久保田敏・高桑正敏, 2012. アギトアリ関東地方で生息を確認. 月刊むし, 501: 13-14.
4. 寺山 守・富岡康浩・岸本年郎・森 英章・上森大幹・岡島賢太郎・伊藤 元・砂村栄力, 2019. 関東地方港湾部で得られた外来アリ類. つねきばち, 33: 13-24.
5. 寺山 守・砂村栄力・沓掛 丈・藤巻良太・小野高志・高須英之・谷川 力・小松謙之・佐々木健・芝生圭吾・富岡康浩, 2023. 八丈島に侵入したガイラアリ 3 種の記録. 都市有害生物管理, 13: 1-9.

#### 千葉県

1. 寺山 守・山口 剛, 1999. 千葉県のアリ類. 千葉県動物誌, 文一総合出版, 756-766.
2. 寺山 守, 2002. アリ科. 千葉県の自然誌 千葉県の動植物 I. 千葉県, 123-129.

3. 寺山 守, 2003. アリ科 Formicidae. 千葉県自然誌資料千葉県産動物総目録, 千葉県, 263-265.
4. 寺山 守・富岡康浩・森 英章・伊藤 元, 2018. 本州湾岸部で発見された外来アリ類 3種. 都市有害生物管理, 8(2): 39-43.
5. 寺山 守・富岡康浩・岸本年郎・森 英章・上森大幹・岡島賢太郎・伊藤 元・砂村栄力, 2019. 関東地方港湾部で得られた外来アリ類. つねきばち, 33: 13-24.
6. 西田恒介・千代田和真, 2023. アギトアリを千葉県から初めて記録. 蟻, 44: 68-70.

### 新潟県

1. 山口勇氣・矢澤ひろみ・岩西哲・工藤起来, 2011. 新潟県十日町松の山における朽ち木に営巣するアリ相. 新潟大学教育学部研究紀要 自然科学編, 2: 27-30.
  2. 山口勇氣・小林紀絵・岩西哲・工藤起来, 2009. 新潟大学五十嵐キャンパスにおけるアリ相: 環境教育への応用. 新潟大学教育学部研究紀要 自然科学編, 3: 69-76.
  3. 山口勇氣・土田大輔・工藤起来, 2015. 新潟県海岸地域におけるアリ相: 環境教育教材としてのアリ類の利用. 新潟大学教育学部研究紀要, 8: 29-39.
  4. 轡田康彦, 2019. 新潟県におけるオオコツノアリの記録. 月刊むし, 586: 43-44.
- \*1 柏崎市

### 長野県

1. 宮澤正有, 2005. 長野県のアリ. まつむし, 94: 12-15.
2. 梅井龍一・上田昇平・服部 充・市野隆雄, 2012. 乗鞍岳におけるアリ類の垂直分布. 環動昆, 23: 119-125.
3. 寺山 守・久保田敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 朝倉書店, 278 pp.
4. 小松 貴, 2014. 長野県小谷村におけるミヤマアメイロケアリの記録. 蟻, 36: 11-15.
5. Ueda, S., T. Nozawa, T. Matsuzuki, R. Seki, S. Shimamoto & T. Ichino, 2012. Phylogeny and phylogeography of *Myrmica rubra* complex (Myrmicinae) in the Japanese Alps. Psyche, 2012 Article: ID319097, 7 pages.
6. 久末 遊・橋爪拓斗, 2023. 長野県から Soil Washing によって採集されたキバジュズフシアリ. 蟻, 44: 49-52.

### 山梨県

1. 萩原康夫, 2003. ハチ目. 第6回自然環境保全基礎調査生物多様性調査生態系多様性地域調査(富士山北麓地域)報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 103-110.

[ツボクシケアリ＝サメハダクシケアリ]

2. 山根正気, 2008. 日本産 *Myrmica excelsa* サメハダクシケアリ (新称) について. 蟻, 31: 29-31.
3. Komatsu, T. & S. Shimamoto, 2009. New knowledge concerning *Strongylognathus koreanus*. Ari, 32: 31-33.
4. 萩原康夫, 2014. 富士山北麓の管理放棄された半自然草地におけるアリ群集の変化. 昆虫と自然, 49(8): 14-18.
5. 寺山 守・久保田敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 朝倉書店, 278 pp. [ツボクシケアリを記録]

#### 富山県

1. 根来 尚, 1994. 富山県のアリ類. 富山市科学文化センター研究報告, 17: 35-47. [62 種]
2. 根来 尚, 1995. 常願寺河原のアリ 2 種. 富山市科学文化センター研究報告, 18: 52.

#### 石川県

1. 富樫一次, 1998. HYMENOPTERA ハチ目. 石川県の昆虫, 石川県環境安全部自然保護課, 252-304. [51 種]
2. 大河原恭祐・福島由起子, 1998. 石川県に於けるアリ相の予備的調査. 蟻, 22: 6-9.
3. 大河原恭祐・岩西 哲, 2007. 石川県におけるアリの種類相-近年の採集新記録種-. 蟻, 29: 5-9.
4. 富樫一次, 2007. イスノフシアブラムシ *Nipponaphis distyiicola* Monzen を巡る昆虫類. New Entomol., 56: 15-17.

#### 福井県

1. 羽田義任・田埜 正・奥野 宏・野坂千津子・室田忠男・黒川秀吉・井上重紀, 1998. ハチ目 HYMENOPTERA. 福井県昆虫目録(第 2 版). 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会, 314-404. [69 種]

\*1 敦賀市樫曲

#### 静岡県

1. Terayama, M. & S. Kubota, 2013. Two new species of the ant genus *Aphaenogaster* Mayr from Japan (Hymenoptera, Formicidae). Mem. Myrm. Soc.

Jpn., 3: 25-31.

2. 寺山 守・富岡康浩・森 英章・伊藤 元, 2018. 本州湾岸部で発見された外来アリ類 3種. 都市有害生物管理, 8(2): 39-43.
  3. 寺山 守・富岡康浩・小松謙之, 2023. マルフシニセハリアリ *Hypoponera zwaluwenburgi* の本州本土での記録. 蟻, 44: 65-67.
  4. 山下勝也, 2015. 静岡県富士宮市でアギトアリを確認. 月刊むし, 533: 60.
  5. 加須屋真, 2008. 静岡県東部のノコギリハリアリの採集記録. 駿河の昆虫, 222: 6171.
- \*1 清水町 ; \*2 伊豆長岡町 ; \*3 榛原町

### 岐阜県

1. 大草伸治・木野村恭一・田中正弘, 2013. Hymenoptera ハチ目. 岐阜県昆虫目録 I. トンボ目・シリアゲムシ目・ハチ目・チョウ目 (蝶類), 岐阜県昆虫分布研究会, 8 86-299. [117 種]
  2. 中島和典, 2007. アミメカゲロウ目, ハチ目, ハエ目など. 可児市史 第4巻 自然編. 目録: 186-191. [クサオオアリ : 木野村他(1982)のクサオオアリは誤同定]
  3. Terayama, M., 2020. A new species of the ant genus *Strumigenys* Smith, 1860 (Hymenoptera: Formicidae) from Japan. Jpn. Jour. Syst. Entomol., 26: 223-225. [マナヅルウロコアリ *S. masukoi* の岐阜県の記録削除し, オモナガウロコアリ *S. kinomurai* を加える]
- \*1 木野村私信

### 愛知県

1. 阿部晃久, 2006. 針葉樹人工植林地において間伐の有無が林床性アリ類の種構成に与える影響. 矢作川研究, 10: 105-108.
2. 木野村恭一, 2016. 豊田市のアリ. 豊田市生物調査報告書<分冊その2>. 豊田市, 171-174. [93 種]
3. Murase, K., B. E. Yahya, K. Kinomura & S. Yamane, 2018. The first discovery of overwintering colonies of the tramp ant, *Paratrechina longicornis* (Longhorn crazy ant), in mainland Japan. Ari, 39: 82-86.
4. 寺山 守・富岡康浩・森 英章・伊藤 元, 2018. 本州湾岸部で発見された外来アリ類 3種. 都市有害生物管理, 8(2): 39-43.
5. 北廣俊吾, 2011. 都市化が公園のアリ相に及ぼす影響 : 名古屋市都心部と周辺部の比較. 蟻, 33: 27-36.

6. なごや生物多様性保全活動協議会, 2019. なごや生きもの一斉調査 2018・アリ編報告書, なごや生物多様性保全活動協議会, 40 pp.
7. 篠原颯杜・小比賀光紘・蒔田将吾・細川涼太・水野理央・寺山守・伊藤文紀, 2023. 四国から記録がなかった稀有なアリ 4 種を香川県で採集. 蟻, 44: 53-55.

\*1 名古屋港 ; \*2 名古屋市

## 滋賀県

1. 岩西 哲, 2011. 滋賀県甲賀地域のアリ相 (予報). 蟻, 33: 37-42.

## 京都府

1. 中嶋智子・関 誠一・片山哲郎・鶴鷹圭三・川原崎功・越智広志, 2013. 保健環境研究所構内のアリ種リスト. 京都府保健環境所年報, 58: 47-50.
2. 中嶋智子・関 誠一・鶴鷹圭三・川原崎功・越智広志, 2013. 単位時間調査法を用いたアリ類定量調査への適用. 環動昆, 24(2): 39-50.
3. 中嶋智子・分銅絵美・片山哲郎・関 誠一・横田 景・福浦祐介・越智広志・山田一成・原田克也, 2016. 3 種類のトラップ法による京都府保健環境研究所構内のアリ種リスト. 京都府保健環境所年報, 61: 46-52. [80 種]
4. 井戸川直人・土畑重人, 2018. クロクビレハリアリの生活史. 蟻, 39: 91.
5. 久末 遊・西本雄一郎, 2018. キバジュズフシアリを京都府で採集. 月刊むし, 565: 52.
6. Idogawa, N. & S. Doubata, 2018. Colony structure and life history of *Lioponera daikoku* (Formicidae: Dorylinae). Asian Myrmecol., DOI: 10.20362/am/010006
7. 中嶋智子・中尾史郎, 2022. ミナミオオズアリ *Pheidole fervens* Smith, 1858 (Hymenoptera, Formicidae)の本州初確認と分布状況ならびに在来種への影響. 昆虫(N.S.), 25: 95-105.

## 大阪府

1. 夏原由博, 1998. 大阪府および府内 3 地点でのアリの記録. 蟻, 22: 1-5. [87 種]
2. 市川顕彦, 1999. 大阪府アリ類分布資料-1. 蟻, 23: 1-3.
3. 増井啓治, 2016. 大阪城公園のアリ相. Nature Study, 62(1): 2-6.
4. 沖本拓也・大門聖・上田昇平, 2018. 大阪府河内長野市におけるイツツバアリ(ヤマアリ亜科)の記録. 蟻, 39: 8-13.
5. 砂村栄力・奥田彩子・寺山 守, 2012. アギトアリの営巣を本州で発見. 月刊むし,

494: 40-41.

## 兵庫県

1. 増井啓治, 2014. 芦屋市の街区公園におけるアリ類. 人と自然, 25: 99-104.

\*1 神戸市須磨区

## 三重県

1. 川添昭夫, 2004. ハチ目 (アリ類). 上野市史 自然編, 上野市, 712-716, 986-988.

2. 川添昭夫, 2011. 志摩半島のアリ類. 志摩半島の昆虫-三重昆虫談話会創立 55 周年記念事業-. 204-207. [84 種]

3. 川添昭夫, 2016. 鈴鹿山脈のアリ類. 鈴鹿山脈の昆虫-三重昆虫談話会創立 60 周年記念事業-. 265-269.

4. 篠原颯杜・小比賀光紘・蒔田将吾・細川涼太・水野理央・寺山守・伊藤文紀, 2023. 四国から記録がなかった稀有なアリ 4 種を香川県で採集. 蟻, 44: 53-55.

## 奈良県

\*1 奈良市

## 和歌山県

1. 寺山 守・木原 章, 1994. 日本産アリ類県別分布図. 日本蟻類研究会, 63 pp. [フタイロヒメアリ]

2. アリ類データベース作成グループ(編), 1995. 日本産アリ類カラー画像データベース 1995. 日本蟻類研究会. [近藤正樹, 1995. 日本産アリ類の生物地理の研究. 藤原ナチュラルヒストリー振興財団第 1 回学術研究助成最終報告, 1-3.]

## 鳥取県

1. 佐藤隆士・鶴崎展巨・濱口京子・木野村恭一, 2010. 鳥取県のアリ類. 鳥取県立博物館研究報告, 47: 27-44.

2. 東 正雄, 2001. 伯耆大山生物誌. 甲陽学院生物部 OB 会, 東生物研究所, 642 pp.

3. 寺山 守・木原 章, 1994. 日本産アリ類県別分布図. 日本蟻類研究会, 63 pp. [ツノアカヤマアリの鳥取県の記録を削除 (安松京三, 1941. むし, 14: 14. による道後山からの記録) ]

## 岡山県

1. 山尾 僚・西本 孝・波田善夫, 2008. 岡山県自然保護センターのアリ相. 岡山県自然保護センター研究報告, 16: 11-17.
  2. 岡山県生活環境部自然環境課・岡山県環境保全事業団, 2003. 岡山県野生生物目録, 307 pp.
  3. 伊藤史紀, 富田 勇, 2012. 岡山県赤磐市でアギトアリを採集. 香川生物, 39: 71-72.
- \*1 鏡野町

## 島根県

1. 林 成多, 2018. 島根県にアリは何種いるのか?～種多様性の解明を目指して～. 平成 29 年度ホンザキ野生生物研究所研究報告会プログラム・要旨集. [予報: 島根県のアリは 82 種と報告: 産経 WEST ニュース. 島根県内に生息のアリは 82 種類. 絶滅危惧トゲアリも. ヒアリなど外来種は「確認されない」2018 年 2 月 9 日]

## 広島県

1. 緒方一夫・頭山昌郁・崔炳文, 1994. 広島県のアリ類. 蟻, 18: 18-25. [78 種]
2. Miyake, K., T. Kameyama, T. Sugiyama & F. Ito, 2002. Effect of Argentine ant invasion of Japanese ant fauna in Hiroshima Prefecture, western Japan: A preliminary report (Hymenoptera: Formicidae). Sociobiology, 39: 465-474.
3. 亀山 剛, 2003. 広島県のアリ類分布資料(1). 比婆科学博物館研究報告, 42: 65-73. [59 種]
4. 亀山 剛・池永宣弘, 2012. 広島県アリ類分布資料(2). 比婆科学博物館研究報告, 53: 59-64.
5. 亀山 剛・若宮慎二・中村慎吾, 2012. 広島県世羅町八田原ダムの昆虫類 2005～2006 年の調査結果. 比婆科学博物館研究報告, 53: 99-204.
6. 安松京三, 1941. ツノアカヤマアリの新産地. むし, 14: 14. [道後山からの記録(1939 年 6 月 3 日, 3 exs.)であるが, その後, 道後山で本種探索の調査が実施されたが, 発見されていない]

## 山口県

1. 寺山 守・木原 章, 1994. 日本産アリ類県別分布図. 日本蟻類研究会, 63 pp. [ヌカウロコアリ・ヒメキアリ]
2. 辻 雄介, 2018. 山口県におけるアリ科の分布調査. 豊田ホテルの里ミュージアム研

究報告書, 10: 11-49. [85 種]

## 香川県

1. 湊 正寿・亀山 剛・伊藤文紀・市野隆雄, 1996. 香川県のアリ相 (予報). 蟻, 20: 9-13.  
[44 初記録種]
2. 深山安洋・伊藤文紀, 2000. 香川県のアリ相 (補遺). 蟻, 21: 8.
3. 深山安洋・伊藤文紀, 2000. 香川県のアリ相 (補遺-2). 蟻, 24: 12.
4. 前藤 薫・伊藤文紀, 2001. ベッピンニセハリアリを四国から記録. 蟻, 25: 9.
5. 伊藤文紀, 2001. 香川県のアリ相 (補遺-3). 蟻, 25: 10.
6. 伊藤文紀, 2007. 香川県のアリ類. 香川の生物, 香川県高等学校生地部会編, 179-184.
7. 池下洋平・後藤彩子・山本和典・谷口伸弘・伊藤文紀, 2007. 香川県丸亀市飯野山のアリ. 香川生物, 34: 59-62. [84 種]
8. 伊藤文紀・池下洋平, 2009. 香川県から未記録だったアリ 4 種の採集記録. へりぐろ, 30: 48. [88 種]
9. 藤本博文, 2012. さぬき市雨滝山でチクシトゲアリを採集. へりぐろ, 33: 20.
10. 記虎日香里・皆川成美・伊藤文紀, 2012. キイロオオシワアリとヌカウロコアリを香川県から記録. へりぐろ, 33: 21.
11. 三崎愛美・細川涼太・藤本博文, 2012. 香川県未記録のヒメオオズアリを丸亀城で採集. へりぐろ, 33: 46.
12. 細川涼太・三崎愛美・藤本博文, 2013. 香川県丸亀市のアリ (I). 香川生物, 40: 17-30.  
[91 種]
13. 伊藤文紀・亀山 剛・寺山 守, 2020. 香川県未記録だったムネボソアリ属 2 種を採集. へりぐろ, 41: 42.
14. 篠原颯杜・小比賀光紘・蒔田将吾・細川涼太・水野理央・寺山守・伊藤文紀, 2023. 四国から記録がなかった稀有なアリ 4 種を香川県で採集. 蟻, 44: 53-55. [102 種]
15. 蒔田将吾・脇 悠太, 2020. 香川県におけるアワテコヌカアリの記録. へりぐろ, 41: 47.

## 徳島県

1. 亀山 剛・田近五郎・伊藤文紀, 1995. 徳島県剣山のアリ類. 蟻, 19: 16.

\*1 三好市; \*2 日和佐町大浜

## 愛媛県

1. 近藤正樹・山本栄治, 2014. 愛媛県内子町などで2010年から2012年に採集したアリ類. しこくこげら, 14: 34-51.
2. 久末 遊, 2017. アワテコヌカアリを四国で採集. 蟻, 38: 27-30.
3. 久末 遊, 2018. 松山城城山公園のアリ相. 蟻, 39: 18-36. [100種]
4. 久末 遊, 2018. 愛媛県愛南町で採集された特筆すべきアリ類 5種. へりぐる, 39: 41-43.
5. 寺山・木原(1994)のツヤクロヤマアリ *Formica transcaucasica* は武智(1960)のヨシオクロヤマアリ *F. yoshiokae* を指すが, 実体はヤマクロヤマアリ *F. lemani* である (園部, 1979) .
6. 寺山・木原(1994)のミツバアリ *Acropyga sauteri* は, 分布表の不具合により高知県の記録がずれたもの.
7. アリ類データベース作成グループ(編), 1995. 日本産アリ類カラー画像データベース 1995. 日本蟻類研究会. [近藤正樹, 1995. 日本産アリ類の生物地理の研究. 藤原ナチュラルヒストリー振興財団第1回学術研究助成最終報告, 1-3. 小田町深山]
8. 久末 遊・久松定智・村上 裕, 2019. 愛媛県で2017年にヒアリモニタリング調査と情報提供によって確認された外来アリ類. 衛生動物, 70: 235-238.

## 高知県

1. 伊藤文紀・湊 正寿, 1996. 高知県高知市と土佐横波のアリ. 蟻, 20: 5-8. [102種]
2. 辻 雄介, 2018. 高知県の民家におけるアワテコヌカアリの記録. 蟻, 39: 14-17.
3. 伊藤文紀・谷地森秀二, 2021. アギトアリを四国から初めて記録. 四国自然史研究, 14: 43-44.
4. Terayama, M. & K. Kinomura, 2019. A new species of the genus *Prenolepis* (Hymenoptera: Formicidae) from Japan. Jpn. Jour. Syst. Entomol., 25: 45-48. [ウワメアリ *Prenolepis* sp. が記載され, *P. tosa* の学名が与えられた]

\*1 土佐清水市

## 長崎県

1. 久末 遊・伊藤誠人, 2020. ツヤオオズアリを長崎県から確認. Pulex, 99: 841-842.

## 佐賀県

1. 田中弘毅, 2014. 佐賀県で初めて確認されたアギトアリ(ハチ目アリ科). 佐賀自然史

研究, 19: 63-64.

#### 福岡県

1. 寺山 守・北出 理, 2005. アギトアリの北九州からの記録. 蟻, 27: 9.
2. 寺山 守・久保田敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 朝倉書店, 278 pp.
3. 久末 遊, 2018. 福岡県におけるアワテコヌカアリ *Tapinoma melanocephalum* の記録. Pulex, 97: 746-749.
4. 久末 遊, 2020. 英彦山アリ類目録. Korasana, 93: 31-38.
5. 久末 遊・今坂正一, 2021. 釈迦岳のアリ類 (予報). Korasana, 96: 157-162.

\*1 福岡市東区

#### 大分県

1. 寺山 守・久保田敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 朝倉書店, 278 pp.
2. 村上豊弘, 2019. アギトアリ *Odontomachus monticola* の大分県での追加記録. Pulex, 98: 807.
3. 久末 遊・今坂正一, 2021. 釈迦岳のアリ類 (予報). Korasana, 96: 157-162.

\*1 黒岳 ; \*2 九重町

#### 熊本県

1. 久末 遊, 2021. 熊本県初記録の外来アリ 3 種. Pulex, 100: 894-896.

\*1 宇城市

#### 宮崎県

1. 那須尚子, 2008. 家屋内に侵入する困ったアリたち -イエヒメアリとアワテコヌカアリ-. タテハモドキ, 44: 27-30.
2. 那須尚子, 2008. 宮崎市でケブカアメイロアリを採集. タテハモドキ, 44: 31.
3. 山根正気・原田 豊・江口克之, 2010. アリの生態と分類 -南九州のアリの自然史-. 南方新社, 200 pp.
4. 山根正気・河野太祐, 2020. アリ科 Family Formicidae. 宮崎県昆虫目録. 宮崎県昆虫調査研究会, 218-221. [95 種]
5. 山根正気・原田 豊・古川博文, 2019. 鹿児島県本土に定着した外来性オオズアリ属の 2 種. Nature of Kagoshima, 46: 239-241.

## 鹿児島県

1. 山根正気・津田 清・原田 豊, 1994. 鹿児島県本土のアリ. 西日本新聞社, 180 pp.
2. 原田 豊, 2008. 鹿児島県城山公園のアリ相. 日本生物地理学会会報, 63: 87-96.
3. 山根正気・原田 豊・江口克之, 2010. アリの生態と分類 -南九州のアリの自然史-. 南方新社, 200 pp.
4. 原田 豊・古藤聡一・川口尚也・佐藤宏洋・瀬戸口太志・村永龍星・山下寛人・楊晃慶・山根正気, 2012. 鹿児島県伊佐市十曾のアリ. 日本生物地理学会会報, 67: 143-152.
5. 松村周平・山根正気, 2012. 鹿児島県慈眼寺公園におけるアリの種構成と優占種. Nature of Kagoshima, 38: 99-107.
6. Terayama, M., & S. Yamane, 2013. Description of a new species of the genus *Themnothorax* Mayr from Japan (Hymenoptera, Formicidae). Mem. Myrm. Soc. Jpn., 3: 32-36.
7. 山根正気・原田 豊・古川博文, 2019. 鹿児島県本土に定着した外来性オオズアリ属の2種. Nature of Kagoshima, 46: 239-241.
8. 久末 遊, 2019. 九州本土から初めて確認されたツヤオオズアリ *Pheidole megacephala*. Pulex, 98: 786-788.
9. 原田 豊・細石真吾・山根正気, 2017. 鹿児島県本土で初確認された侵略的外来種アシナガキアリ. Nature of Kagoshima, 44: 9-12.

## 薩南諸島（鹿児島県）

1. 細石真吾・吉村正志・久保木謙・緒方一夫, 2007. 屋久島のアリ類. 蟻, 30: 47-54.
2. 山根正気, 2016. 奄美群島には何種のアリがいるか. 奄美群島の生物多様性 研究最前線からの報告, 南方新社, 92-132.
3. 福元しげ子, 2016. 薩南諸島北部のアリ相. 奄美群島の生物多様性 研究最前線からの報告, 南方新社, 133-142.
4. 山根正気・福元しげ子, 2017. 薩南諸島における放浪種アリ類. 奄美群島の外来生物生態系・健康・農林水産業への脅威, 南方新社, 108-131.
5. 名嘉猛留, 2023. 琉球列島の各島において新たに記録されたアリ 16 種. 蟻, 44: 45-48.

## 沖縄県

1. 寺山 守・高嶺英恒・久保田敏, 2009. 沖縄のアリ類. 自刊, 165 pp. [146 種]

2. Terayama, M., 2013. Additions to knowledge of the ant fauna of Japan (Hymenoptera; Formicidae). Mem. Myrm. Soc. Jpn., 3: 1-24.
3. Terayama, M. & S. Kubota, 2013. Two new species of the ant genus *Aphaenogaster* Mayr from Japan (Hymenoptera, Formicidae). Mem. Myrm. Soc. Jpn., 3: 25-31.
4. 原田 豊・中村美月・若松良衣, 2015. ウスヒメキアリの南西諸島からの新記録. 日本生物地理学会会報, 70: 203-205.
5. Naka, T., & M. Maruyama, 2018. *Aphaenogaster gamagumayaa* sp. nov.: the first troglobiotic ant from Japan (Hymenoptera: Formicidae: Myrmicinae). Zootaxa, 4450: 135-141.

人為的移入種（動植物検疫で発見され、移入が止められたもの及び海外から陸揚げされた輸送貨物内で発見されたものを除く）

1. 寺山 守・久保田敏, 2002. 東京都のアリ. 蟻, 26: 1-32.
2. 寺山 守・富岡康浩・森 英章・伊藤 元, 2018. 本州湾岸部で発見された外来アリ類 3種. 都市有害生物管理, 8(2): 39-43.
3. 寺山 守・富岡康浩・岸本年郎・森 英章・上森大幹・岡島賢太郎・砂村栄力, 2018. 東京港及び横浜港で得られた外来アリ類. 昆虫と自然, 53(10): 25-26.
4. 寺山 守, 2018. ハヤトゲフシアリ: 新たな侵略的外来アリ. 昆虫と自然, 53(9): 4-7.
5. 寺山 守・砂村栄力, 2019. 外来アリ *Iridomyrmex anceps* の国内での発見. 蟻, 40: 23-26.
6. 寺山 守・富岡康浩・谷川 力, 2022. 近年港湾部で発見されたヒメアリ類の分類. 蟻, 43: 18-33. [差し換え用の図 2, 図 3 がアリ類研究会 HP よりダウンロード可]
7. 本山直人・七里浩志, 2020. 横浜市内における外来アリの確認事例. 横浜市環境科学研究所報, 44: 24-32.
8. 寺山 守・上田昇平・橋本佳明・辻井健太郎・岸本年郎, 2022. 日本初記録となる外来アリ *Camponotus compressus* (Fabricius, 1787). 東海自然誌, 15: 35-39.
9. 寺山 守, 2021. 緊迫する侵略的外来アリの侵入. ペストコントロール, (196): 11-16.
10. 上田昇平・村上協三, 2022. 大阪府における侵略的外来種ハヤトゲフシアリ(ハチ目・アリ科) の記録. 昆虫(N.S.), 25: 33-36.
11. 寺山 守, 2023. 侵略的外来アリ 4種の国内分布記録. 蟻, 44: 78-91.

\*1 大阪港 ; \*2 博多港 ; \*3 東京都品川区